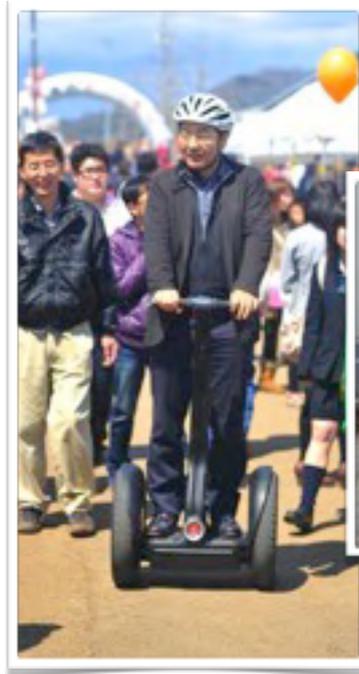


岡山県赤磐市 桜が丘地区 ニューモビリティ^(※)導入事業

住民と共に進めるモビリティによるコミュニティづくり

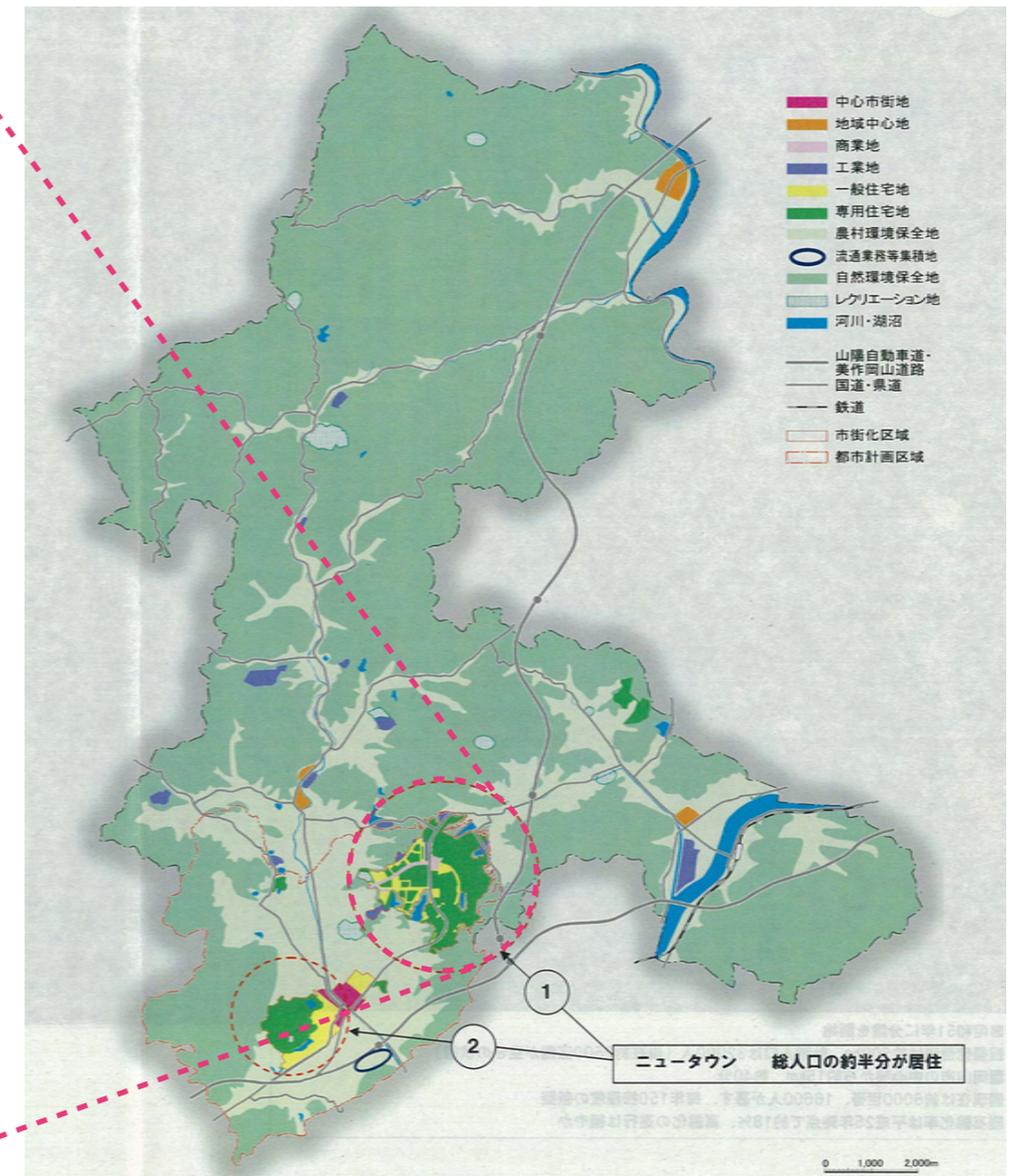
(※) 免許不要の電動1～3人乗りの車両 (電動アシスト含む)



赤磐市

岡山県赤磐市桜が丘地区について

- 人口 16,600人、約6,000世帯（平成25年度）
- 高齢化 18%（平成25年度）
- 空き区画 約2,500区画
- 岡山市中心部から15kmのなだらかな丘陵地に位置する団地
- 大和ハウス工業株式会社が1974年頃から土地区画整理事業などによって造成
- 低層の戸建住宅が中心。比較的ゆったりとしてフラットな区画で、庭や駐車場も十分確保されている。
- 大型の商業施設、病院、市役所等が集まる中心市街地まで4キロ程度離れている。
- 丘陵地であり、坂も多く、高齢化が進むにつれて、比較的利便性の高い岡山駅周辺への住み替えが起こっている。



本地区における課題

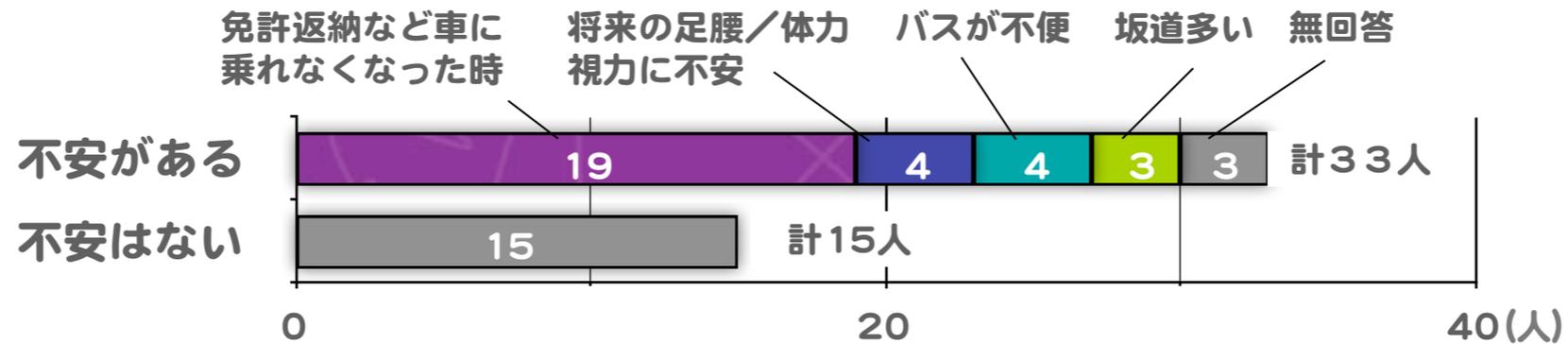
地理的課題

坂道が多い
自宅からバス停が遠く、バスの本数少ない

クルマがないと、生活が不便

住民の意識

Q：将来の移動に不安を感じたことがありますか？

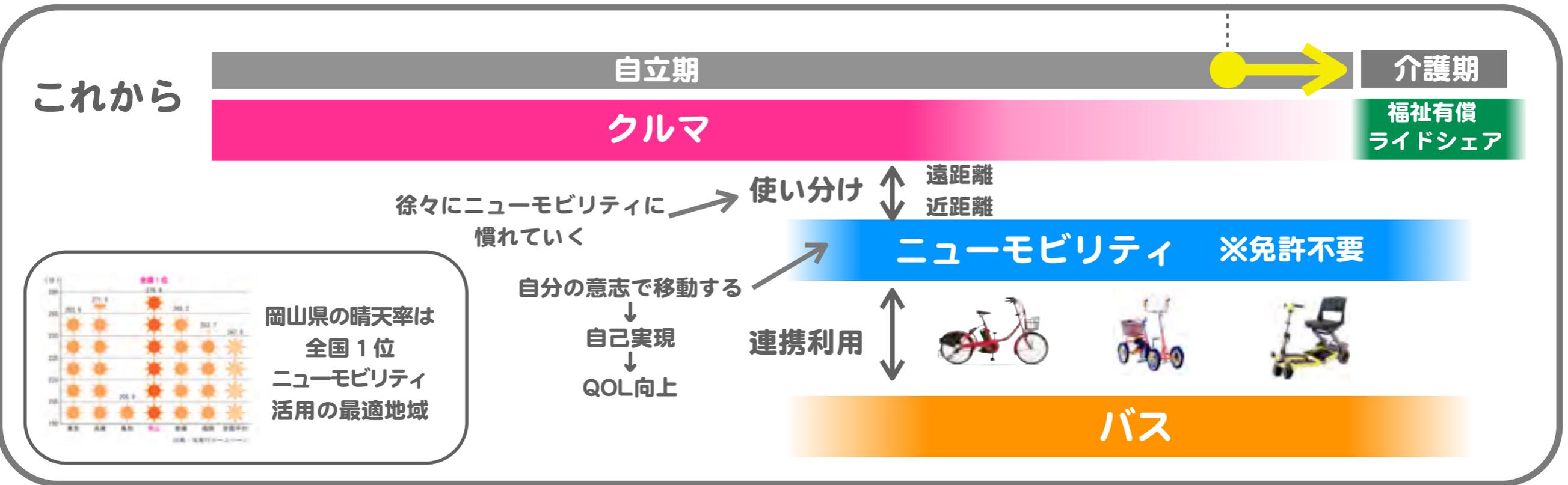
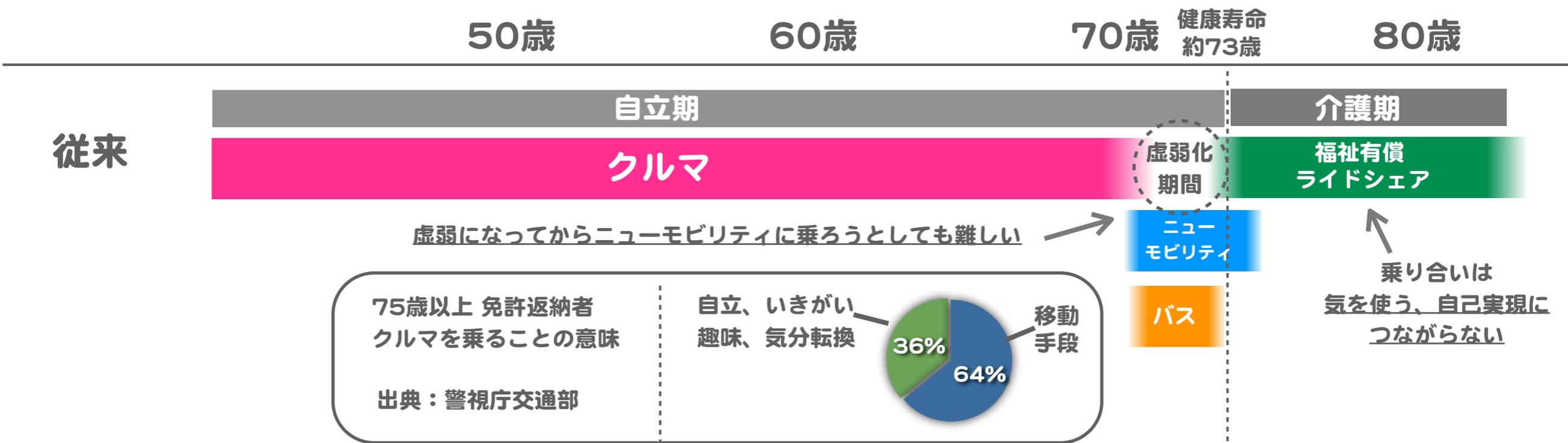


出典：赤磐市桜が丘街区エリア試乗会アンケート

免許返納後など
クルマがなくなった時の生活に不安

クルマ依存は不安だが、そのための準備に踏み出せない。

本事業の目的



外出による地域とのつながり ▶ 健康寿命の延長

～近未来にむけて一歩踏み出す～

モビリティを楽しく体験・ワクワクを共有できる導入プロセス

じぶんごと、みんなごととして地域全体に取り組む

導入コンセプト

『つながりから始まる新たなコミュニティの形成』 → 集う・憩う・助け合う・呼び込む

モビリティ × コミュニティ

モビリティを活用しながら、コミュニティを創り上げる。



楽しく体験
ワクワクを共有

体験型 共感プロセス

見て触って乗ってみて考える

2014年3月

①ワークショップ

多様な乗り物を
試して対話する。



2014年4月

②イベント連携試乗会

いろんな方に
試してもらう。

2015年3月

③街区エリア試乗会

実際の
生活環境で試してみる



2015年10月～11月

④モニター実証実験

一ヶ月間、実際の生活で試してみる

2015年11月

⑤ワークショップ

実証実験の結果を踏まえ運用案を検討する。



GPS機能付



①他地域の事例紹介

②専門家からの
インスピレーション

●様々な車両の紹介

●導入事例の紹介

体験をベースに”使いたい”と思える車両を絞り込み

導入後には、じぶんごと、みんなごととして活用が進む

楽しく体験
ワクワクを共有

対話型 協創プロセス

アクティブ市民と運用方法を共に考える

導入後には、モビリティ伝道師として活用を協働

市民

地域との
関わりに積極的な
アクティブ市民

- まちづくり系
NPO法人
- 青年団
- 消防団
- 町内会

〇〇地域の事例が
参考になりますよ。
△△モビリティが使いやすいですよ

モニターさん
紹介しますよ。

地域イベントで
試乗会しては？

地域イベント連携
試乗会



アクティブ市民の方々と
赤磐市役所職員との懇親会

ワークショップ

一緒に近未来の
移動を考えませんか？

一ヶ月間の
モニター実証実験を
検討しているのですが・・・

自治体と市民が
互いに持ち寄ることが
成功の秘訣です。

モビリティ専門
アドバイザー

株式会社グラディエ

赤磐市

産官学民協働事業

桜が丘の近未来のわたしたちの暮らしを考える
ワークショップ

テーマ
コミュニティと
モビリティ(移動)



日時・3月2日(日)午後1時より

場所・桜が丘いきいき交流センター

主催・早稲田大学サステイナブルタウン研究会

問い合わせ・申し込み先・赤穂市都市計画課 ☎955-1486

住民の意識調査



” 問い ” の共有

- ・ 漠然とした不安「つながりは必要」
- ・ 免許返納後はどうする？

事前の相談→関係性の構築

インスピレーション

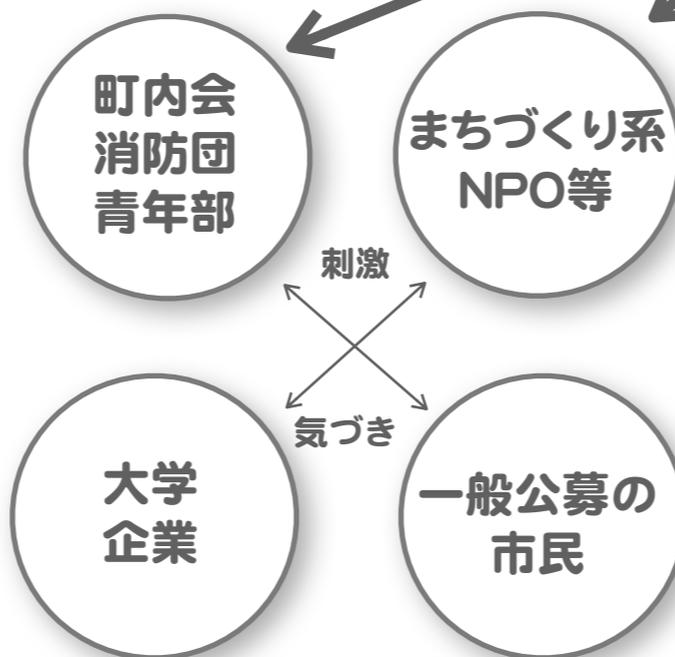
先進事例の共有

- ・ JTBコーポレートサービス
- ・ 上山集落
- ・ グラディエ 他

モビリティの体験



③多様なメンバーでの対話



アイデア

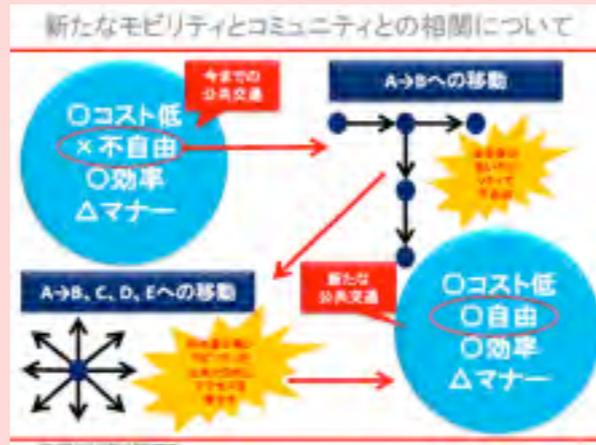
アイデア

アイデア

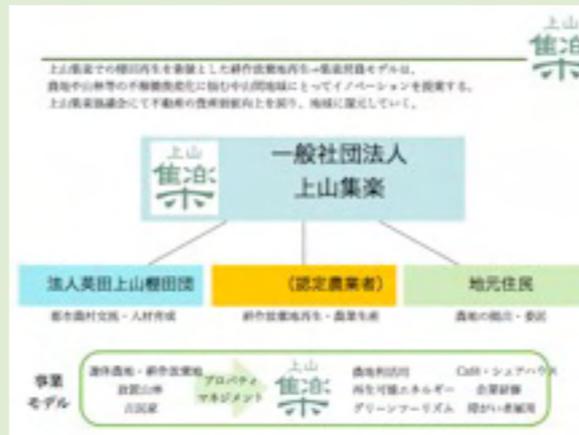
Next Step
地区内活動で実践

様々な刺激を受け、みんなでアイデアを出し、みんなごととして次のステップへ

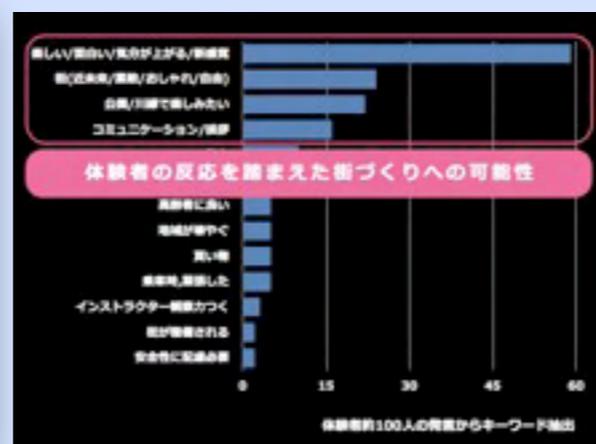
「モビリティのシェアリングは次世代の公共交通になる」 JTBコーポレートセールス 黒岩氏



「地域ニーズの小さなことが、大きなつながりづくりになる」 一般社団法人上山集落 水柿氏



「パーソナルモビリティによる人づくり、街づくり」 グラディエ 磯村氏



①ワークショップ <モビリティ体験> 2014年3月



セグウェイジャパン社
セグウェイPT i2
協力： 上山集落



パナソニック社



ギョットアニーズ



ビビ・SS・20



かるやかライフEB

協力： パナソニック サイクルテック社



アイシン精機社
タオライトII-m
協力： アイシン精機



クラモト社
ラギー

協力： クラモト社



「近未来のチラシ、リリース」を創る。

ヘッドライン

いつ
誰が
何を目標して
何を使って (モビリティ)
何をするのか

記入は
模造紙

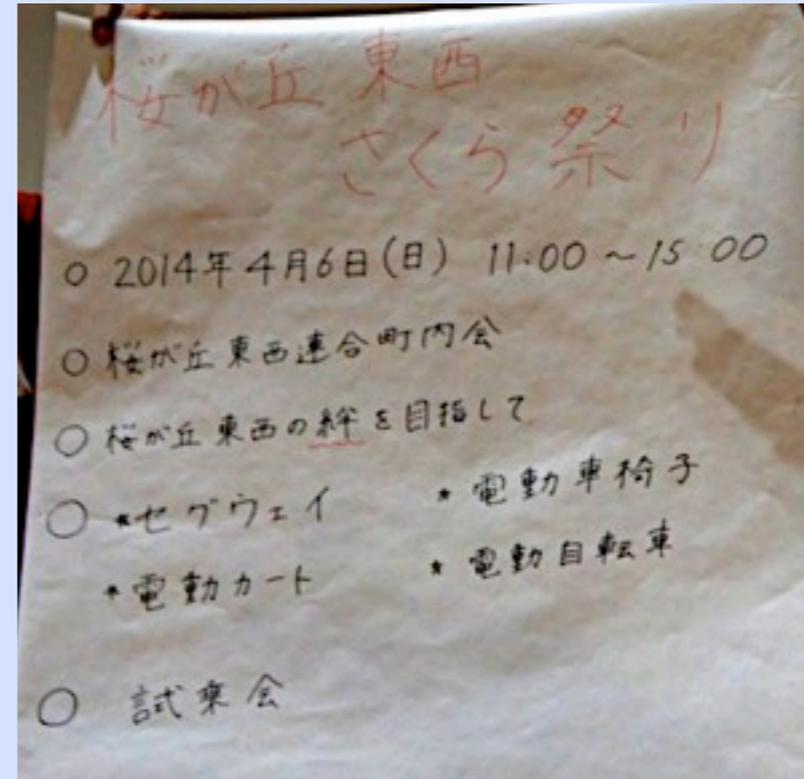
10分間



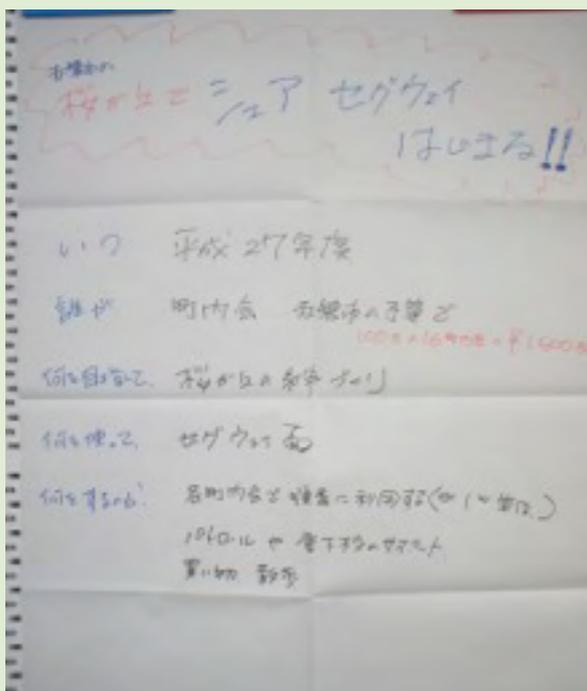
地域のつながりを生む「ふれあいショッピングバス」



モビリティによる桜祭りの回遊性向上と絆づくり



セグウェイのシェアリングを通じたコミュニティづくり



Next Step

地区内活動でのトライアルへ



グループに分かれて議論する住民ら

赤磐・桜が丘地区

赤磐市桜が丘地区をモデルに、ニュータウン再生の調査研究に取り組み「サステイナブルタウン（持続可能なまち）研究会」（早稲田大、同市、民間企業で構成）は2日、同地区の「近未来の暮らしを考える」と題したワークショップを、同市桜が丘東の桜が丘いきいき交流センターで開いた。

ニュータウンの近未来は

住民らワークショップ

地元住民ら24人が参加。「モビリティ」（移動手段）を切り口に、ニュータウンが抱える課題や地域のつながりをつくる方策を探った。モビリティデザイナーの磯村歩氏（東京）が進行役を務め、参加者によるモビリティの乗り物体験、グループ討議などが行われた。（今井康人）



乗り物を体験する住民ら

【磯村氏の問題提起】ニュータウンは、マイカーの増加でバスなどの公共交通機関が衰退し、高齢者らは買い物や通院などに不便さ、不安を感じている。首都圏も例外ではない。ゆっくりと動く乗り物を積極的に取り入れることで外出範囲が広がり、会話が生まれて地域が元気になるのではないか。

【発表】高齢者の困り事を手伝えるなどしている美作市上山の「みんなの孫プロジェクト」代表の水柿大地さん（24）ら2人が行った。定住人口だけではまちは衰退の一途をたどるため、交流人口をどう増やすかが大切で、新しいモビリティを利用することで夢が広がるとした。人生をもっと楽しむためにも新しい移動手段を取り入れるべきだと訴えた。

【乗り物体験】立ったまま体重を前後に傾げることで進むセグウェイ（電

ワークショップの主な内容

動二輪車）をはじめ、電動アシスト付き自転車、電動車いすなどに参加者が試乗。「セグウェイは子どもの見守りパトロールに最適」「新鮮なイメージ」との声が聞かれた一方、「慣れないと運転に不安」「道路の整備が必要」との指摘もあった。

【グループ討議】住民が5グループに分かれ「桜が丘で始められることは何か」について議論し、それぞれの代表が発表した。「買い物支援や友達づくりのため触れ合いバスを運行しては」「モビリティの試乗会を」などの提案があった。

【まとめ】早稲田大の永井猛教授は「まちづくりは市民が自ら考え挑戦することで発展していく。新たなシナリオが生まれることを期待している」と結んだ。



移動手段として提案されたセグウェイに試乗する住民＝赤磐市桜が丘東5丁目

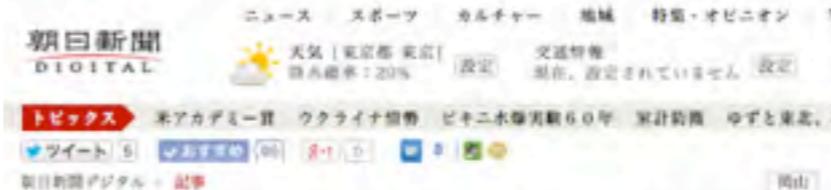
ニュータウンの未来は 移動主題 セグウェイ試乗 赤磐

県内有数のニュータウン、赤磐市桜が丘地区の未来の姿を考える催しが2日、同地域の交流センターであった。市から同地域の再生について調査研究を委託された早稲田大学サステイナブルタウン研究会が「コミュニティとモビリティ（移動）」をテーマに開催。住民や市民団体メンバーら約30人が参加した。

研究会の主宰者で大学院商学研究科の永井猛教授によると、坂の多い同地域の住民への聞き取り調査で、年をとったときに個人で移動できる手段を確保できるか不安だという声が強かったという。会合では、美作市の上山集落で柵田の移動にセグウェイという二輪の乗り物を使っている例、観光などでカーシェアリング（車の共同利用）をしている例などが報告され、折りたたみ式電動カートや電動アシスト自転車などの試乗も行われた。

参加者らは話し合いの結果、地域の桜祭りなどで電動カートなどを貸し出す移動できる高齢者がこれらの乗り物を使って動けない高齢者の買い物をする▽セグウェイのシェアを試す、といった取り組みの案を提示した。友実武則市長も出席してセグウェイに試乗し、こうした移動手段の活用の可能性を検討したいと話した。

（阿部治樹）



岡山) ニュータウンの未来は セグウェイ試乗も 赤磐

2014年3月3日09時00分



移動手段として提案されたセグウェイに試乗する住民＝赤磐市桜が丘東5丁目

県内有数のニュータウン、赤磐市桜が丘地区の未来の姿を考える催しが2日、同地域の交流センターであった。市から同地域の再生について調査研究を委託された早稲田大学サステイナブルタウン研究会が「コミュニティとモビリティ（移動）」をテーマに開催。住民や市民団体メンバーら約30人が参加した。

研究会の主宰者で大学院商学研究科の永井猛教授によると、坂の多い同地域の住民への聞き取り調査で、年をとったときに個人で移動できる手段を確保できるか不安だという声が強かったという。会合では、美作市の上山集落で柵田の移動にセグウェイという二輪の乗り物を使っている例、観光などでカーシェアリング（車の共同利用）をしている例などが報告され、折りたたみ式電動カートや電動アシスト自転車などの試乗も行われた。

参加者らは話し合いの結果、地域の桜祭りなどで電動カートなどを貸し出す移動できる高齢者がこれらの乗り物を使って動けない高

不安を解消した先にある**可能性**

モビリティの楽しさ

- セグウェイ面白い。
 - セグウェイ、顔がほころぶ。
 - セグウェイは楽しい。
- まずイベントで活用して理解を進めていけばいい。

1

活動が活発化

- コミュニティ形成（つながりづくり）に有効かも？
- モビリティを活用するのは足の不自由な方だけではない。いろんな方が楽しめるもの。
- 高齢者の活動が促されるのでは！

2

さまざまな運用アイデア

互助で担う相乗りモビリティ
「ふれあいショッピングバス」



町会持回りモビリティで見守り
「セグウェイシェア」



地域の絆づくり
「さくら祭り試乗会」

バス停までの送迎モビリティ
「バスの復活」

イベントでの試食提供
「試食モビリティ」



導入にむけた**5つの不安**

①運転者の操作能力

セグウェイにいきなり乗車は危険？！

②運転者のマナー

安全運転の意識づけ

③他モビリティとの共存

道路環境における棲み分け

④道路環境の整備

段差解消や歩道の狭さ

⑤導入や購入コスト

セグウェイ80万以上

新しいモビリティに可能性を感じるものの
実生活において有効に活用しうるのか不安がある。

導入にむけた5つの不安

①運転者の操作能力

セグウェイにいきなり乗車は危険？！

②運転者のマナー

安全運転の意識づけ

③他モビリティとの共存

道路環境における棲み分け

④道路環境の整備

段差解消や歩道の狭さ

⑤導入や購入コスト

セグウェイ80万以上

自治体に取り組むこと

- ・専用道、優先道の整備
- ・有効に活用できる仕組みの提案
ex) 観光と通勤通学のマルチ用途
ex) 自家用車の相乗り
- ・モビリティを体験できる機会提供

メーカーに取り組むこと

- ・安全運転講習
- ・モビリティを体験できる機会提供

住民に取り組むこと

- ・桜が丘にあったルール作り
- ・リスクだけに目を向けるのではなく移動によるQOL向上やコミュニティ形成にむけた積極性と理解

不安に対し、それぞれのステークホルダーで取り組むべきことを共有したが住民にとっては、未だ自発的に取り組む動機までには至っていない。

イベントという実空間/時間で利用したときの有用性を探る。 桜が丘東西さくら祭りモビリティ試乗会 (セグウェイ)

活動背景を知る

ワークショップ報告チラシ配布



ワークショップ報告掲示板



運営メンバーによる説明



- ①実際に乗ってみる。
- ②イベント活用の雰囲気を感じる。

特定エリア (パイロンで区切) でのセグウェイ試乗

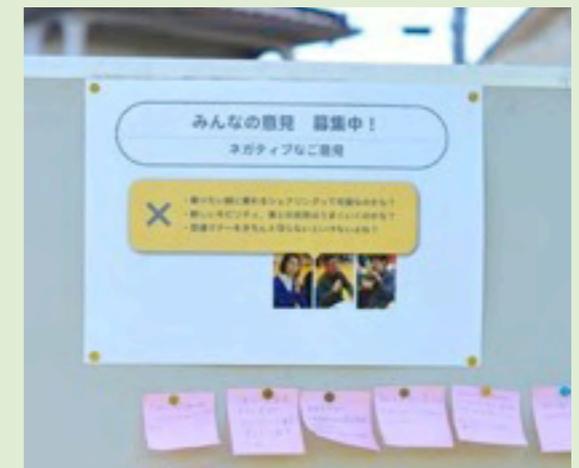


イベント会場内でのセグウェイ周遊デモ



感想をシェアする

ポストイットで感想を掲示



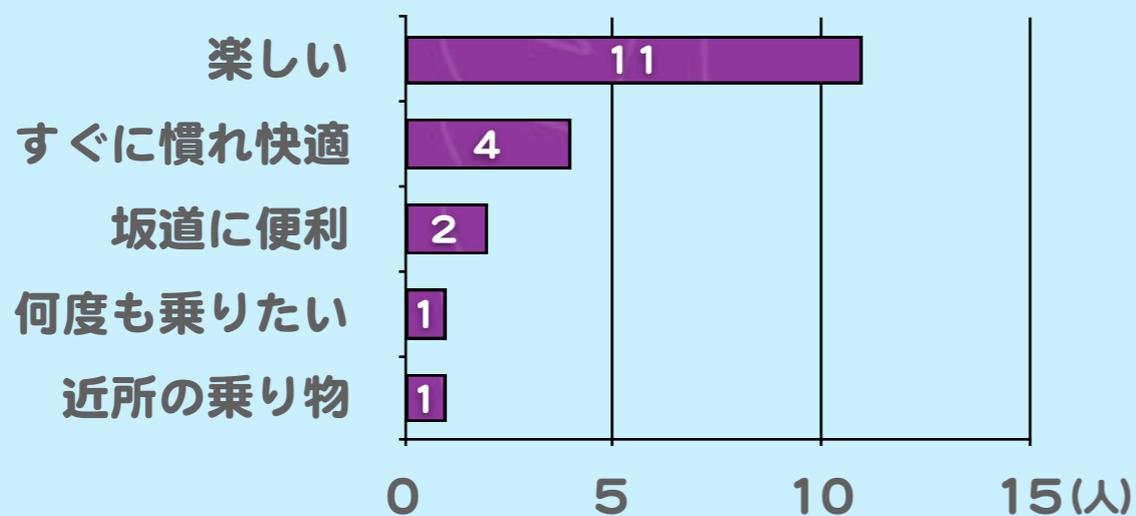
Next Step

受容性の確認
導入事業案の精査

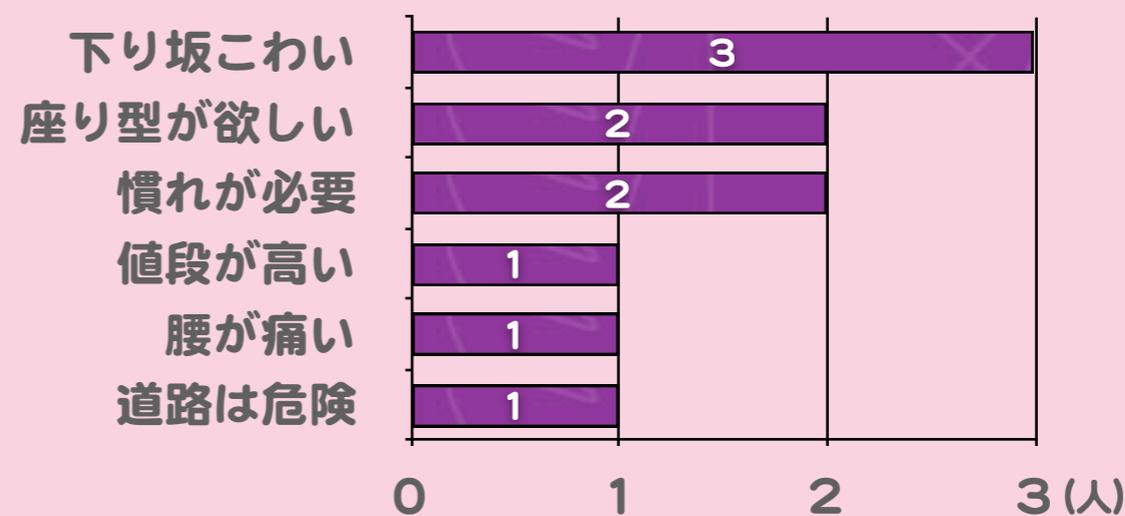
- ・ニューモビリティへの興味喚起
- ・道路環境への関心

- ・自分のニーズと向き合えた
- ・道路環境への関心

ポジティブ反応



ネガティブ反応



セグウェイに興味を惹かれ、ニューモビリティの楽しさを実感。
また実際の活用シーンにもイメージが膨らんだ。



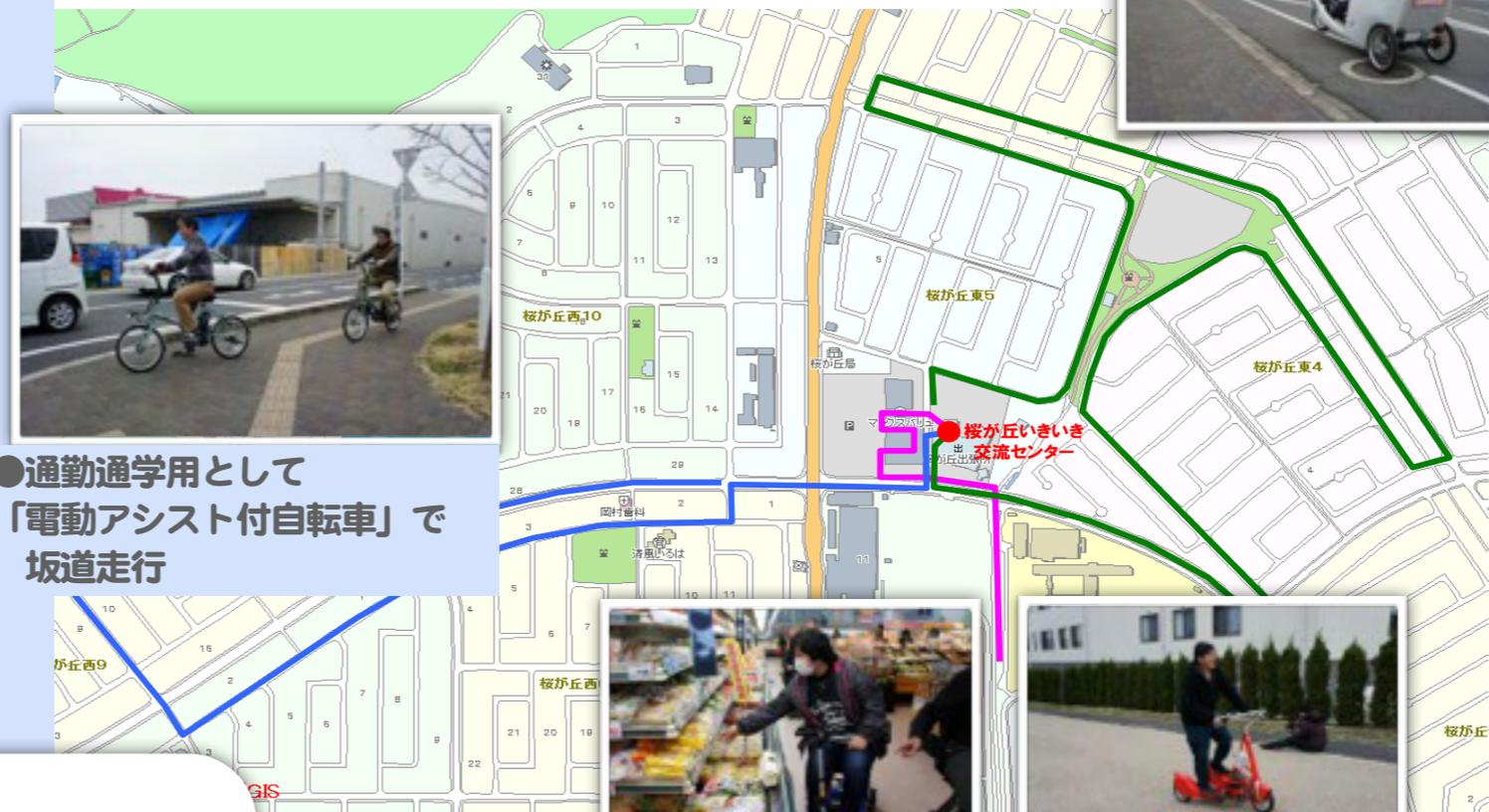
未来の移動を考えるきっかけになったが
”ここから” ”じぶんごと” に転化させるための更なるが一步が必要

③街区エリア試乗会<プログラム概要> 2015年3月



実際の生活環境&想定用途で
使ってみる。

●区内送迎用として「ベロタクシー」で集会所を周遊



●通勤通学用として
「電動アシスト付自転車」で
坂道走行

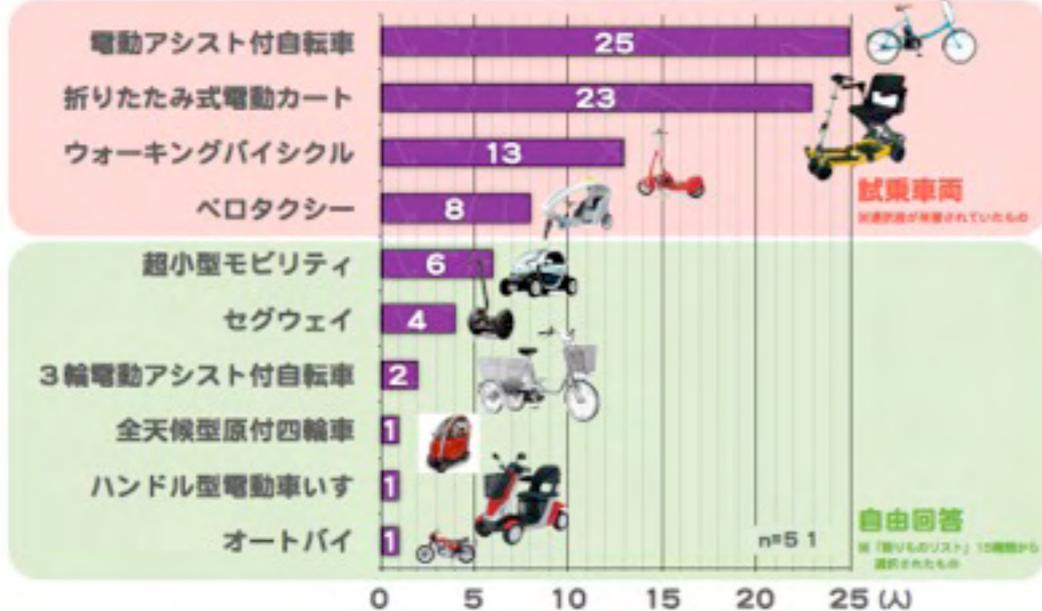


●「電動カート」でお買い物

●「立乗の電動アシスト付自転車」で
公園散歩

アンケート

アンケート結果「利用したい乗りもの」

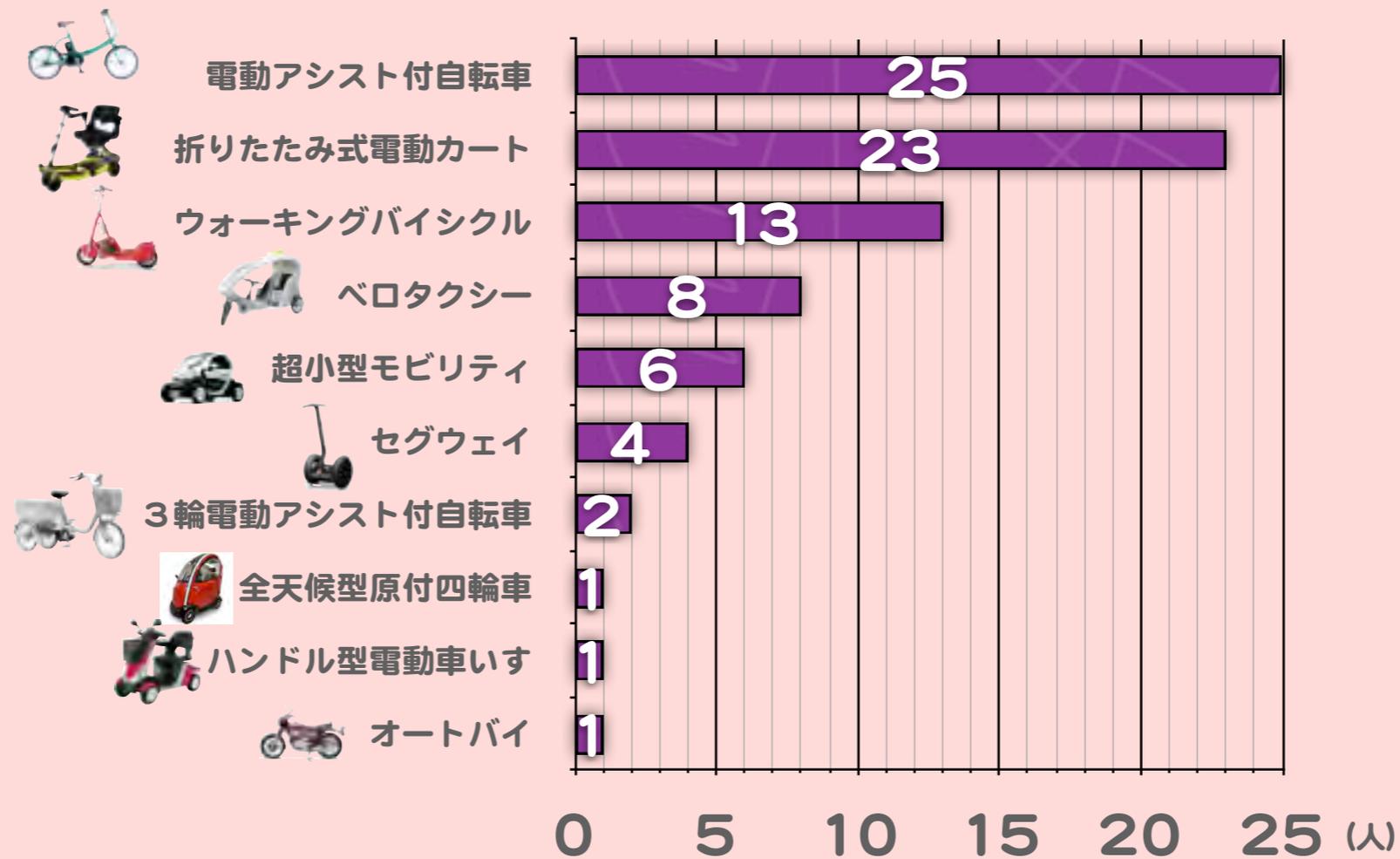


Next Step

導入事業案の精査



未来の移動に対する不安は「クルマが運転できなくなった時」
 一方で、公共交通が使いづらいという意見もあり
 代替え手段が求められている。



想定用途にそった車両およびまち中での体験を通じ
 実際の生活における有用性に意識が及んだ。



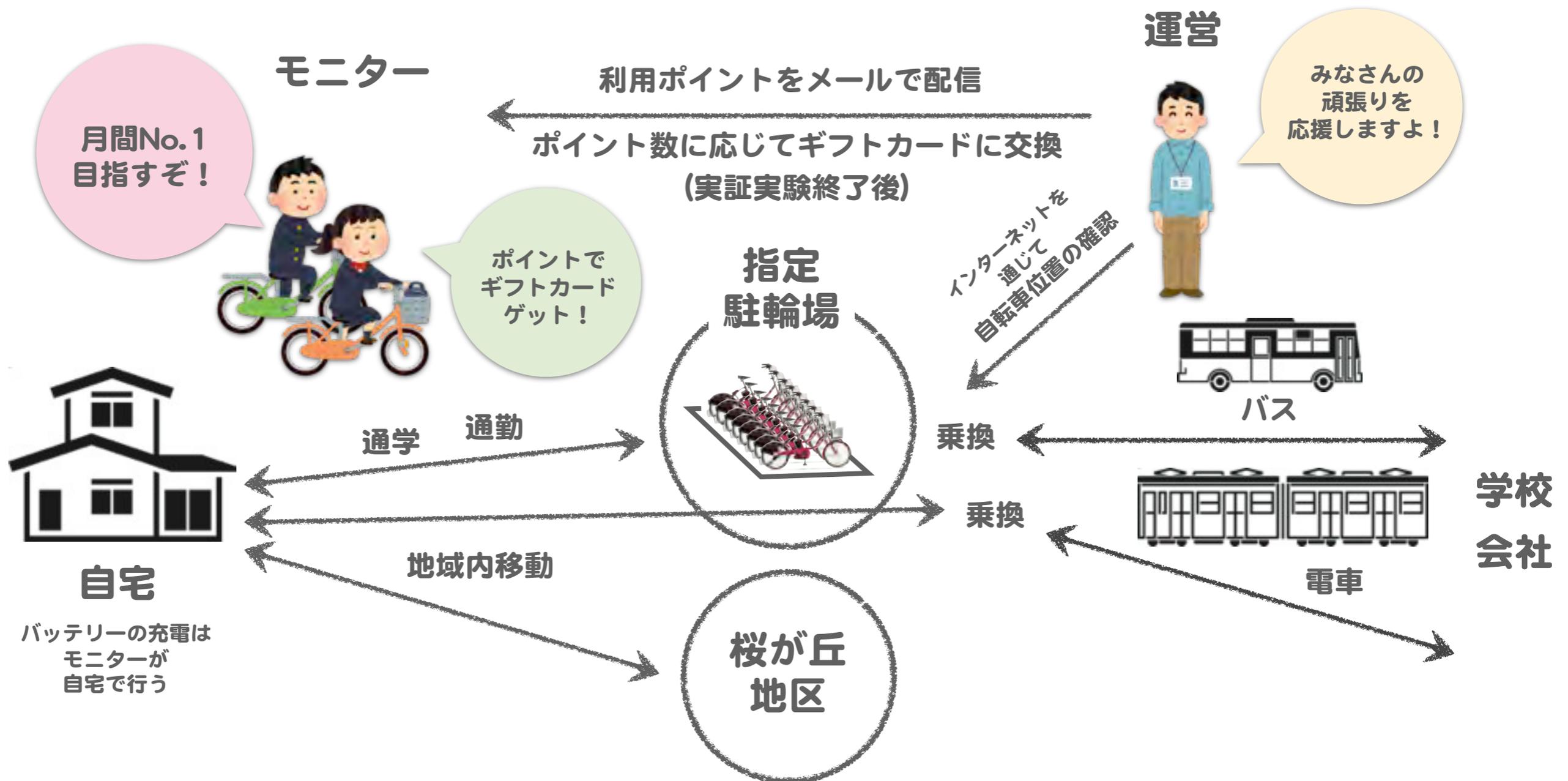
個々の車両のポテンシャルは評価できたが
 これらの車両を実際の運用に展開する仕組みづくりが求められる。



一ヶ月間、実生活で活用し有用性を検証する。

電動アシスト付自転車（位置情報検出機能付）で

「乗ってポイント、みんなで楽しく健康づくり」





一ヶ月間、実生活で活用し有用性を検証する。
電動カートで
「乗ってポイント、楽しくお散歩」



いきいき
交流センター

出かけるように
なって
お友達も
増えたかも



中央緑道



中央緑道の
散歩って
気持ちいいね。

高齢者施設

バッテリーの充電は
施設で
行っていただく



電動カートを
お使いいただくと
ポイントを
差し上げます。

スーパー
マーケット



自分のペースで
らくちん
お買い物

今までの結果にもとづき、導入コストも踏まえたプランを策定し、早期導入にむけて検討していきます。